

研究課題番号	SⅡ-2
研究課題名	海洋プラスチックごみに係る動態・環境影響の体系的解明と計測手法の高度化に係る研究
研究実施期間	平成30年度～令和3年度※
研究機関名	九州大学
研究代表者名	磯辺 篤彦

※新型コロナウイルスの影響のため、研究期間を令和3年3月より、テーマ1については令和4年3月まで、テーマ3については令和3年5月までそれぞれ延長

1. 委員の指摘及び提言概要

各テーマが融合し、全体的にまとまった研究成果が得られている。環境政策にも貢献が見られると共に、他の研究者や市民調査にも反映できている。モニタリング等を通じて、将来予測可能なシミュレーションを構築し、有用な成果と考える。ユニークな観測手法、モデリング手法ともに革新的な成果が得られている。結果として、世界に発信できる知見を得ることができ、学术论文も高い引用回数を得られた点が評価できる。また、G20 ステートメントへの貢献などの行政成果もある。

生物が海洋中のプラスチックの動態にどのように寄与するのかを追及することが、今後の研究課題として非常に重要である。そのための基礎的な手法の開発がテーマ3でかなり進んだので、次の課題に対する基盤が整備されたといえる。

2. 採点結果

評価ランク：S